

教艸 あしえ ぶら

女房形氣 おんなのぼうのかたち

秀賀作
國貞画

新刊 女房形氣

山田屋版
丁卯春新刊

~ 13
3703
24



梅蝶樓國貞画

鶴亭秀賀著

教草女房形氣廿四編



下

上

錦橋堂上梓

門 へ 13
 號 3703
 卷 24

教草女房
 形氣第
 二拾四編

秀賀作

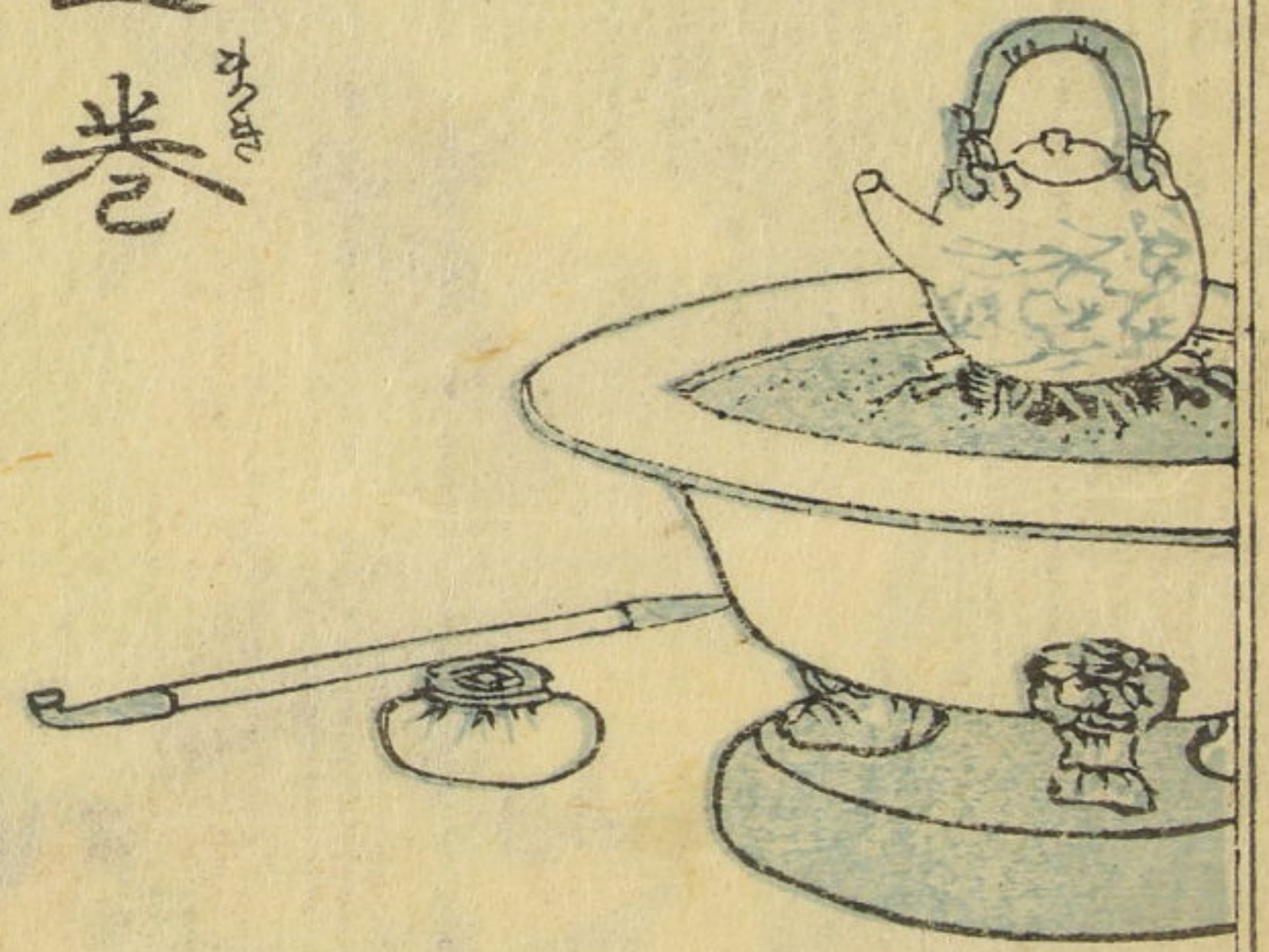
國貞画

丁卯譽

山田屋

新版

壽梓



教草女房形氣廿四編

山東弁京山遺州
 鶴亭秀賀編次

往昔新吉原より扇屋のわらふ花扇とる遊女あり
 容儀の麗しきもの
 諸君の御覧の如く殊に
 諸君の御覧の如く殊に
 諸君の御覧の如く殊に

有徳多町人の
 子息深く馴
 染で通ひ詰る
 の有るる



で居續上ののみ有るれ其母茶下過
 或時花扇の方へ文送りたる其文ふいり
 一方ありぬるやあはれとて

印

④ 方へのみよひはつとて更におくひをさるねと後来病必の
 生れは日後酒宴のみ長下は終は病の極と申あり
 赤くも外ふるさとの由あはば返るぬと
 母の心もあはれませ
 おくは下中送るねが
 花扇ハるとかきき
 上へてさびさ一首の
 歌を詠て久しなるその
 歌みうらなぬあはれとてさき
 ありて一人の情と人のあはれにかきき一首の
 裡に千萬無量の思ひはとて其母も花扇の
 心中賢るを知り急ぎ身請を做して宿の



渾家とて遣はるふ心子ハるど病み染や死し
 花扇の歎き大方ありさ髪を下し
 尼とあり朝暮佛み
 仕方
 其の
 其の
 其の
 行を竭せと尤
 深切きと中中の蓮
 葉と称讃して専ら其項評判せりと
 言り夫程もあはれ共巻中みよひをその
 行状同ト遊女とてと花扇み競て
 何と評せん實み人面獸心と申



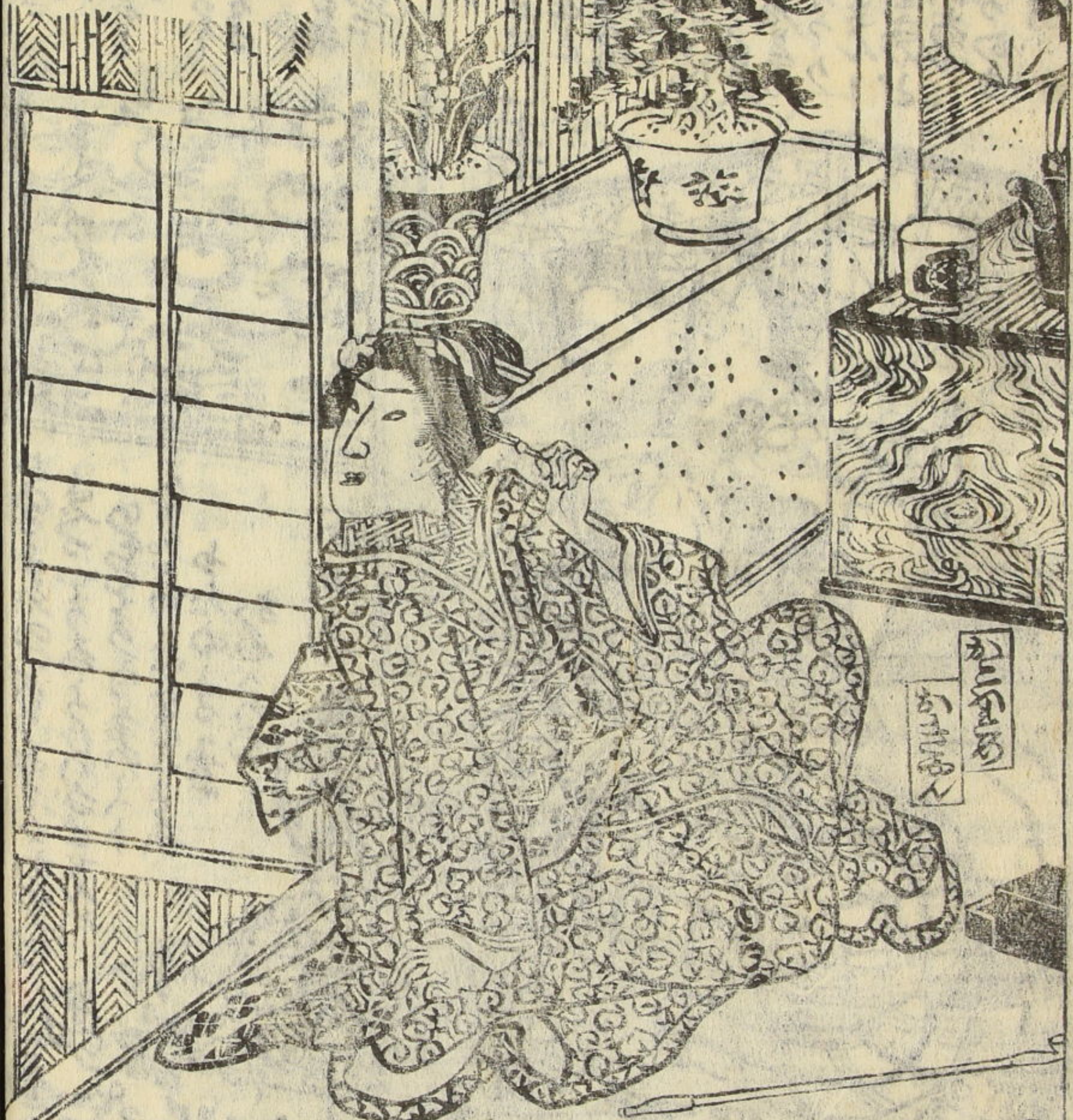
終り成
 非業の
 終る
 未栄の
 者の
 美
 照々
 乍併天の
 印へ



遂るふ至る開ハ次編み説を讀得て孝貞の二字の貴を知り
 給へりといふ
 千時慶應元乙丑稿成
 同二丙寅歳初春發兌

鶴亭秀賀識

あつちのあつち
このあつちのあつち
あつちのあつち



あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち

あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち



あつちのあつち
あつちのあつち
あつちのあつち

あつちのあつち

あつちのあつち

第四段

王の助

あつち

あつちのあつち

あつち

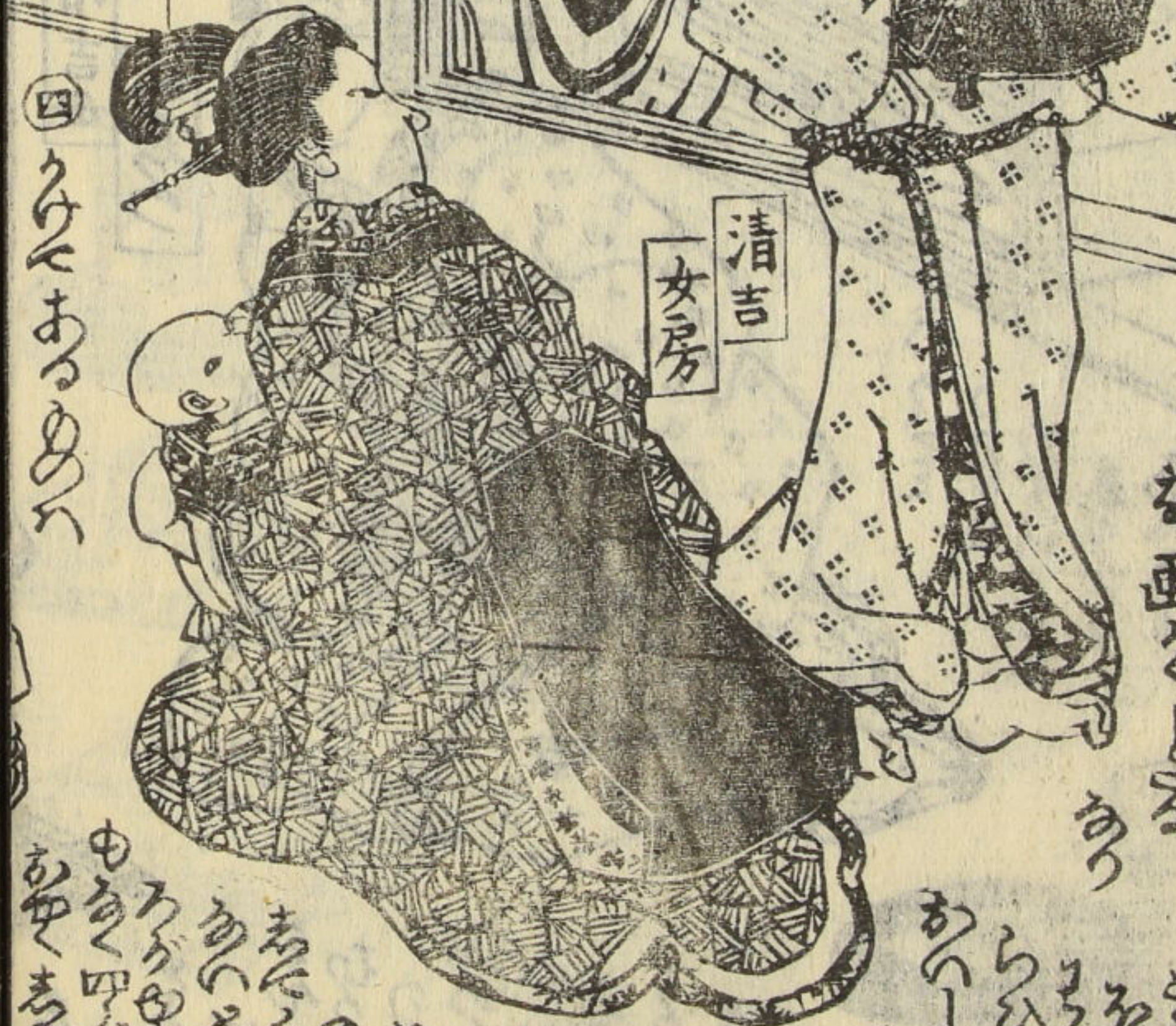
つぎ...
まろくしてあつめ
おんみでこのまの
おとがでたるを
あまんぢうみで
あやうとふ

清吉母
あまの

まろくしてあつめ
おんみでこのまの
おとがでたるを
あまんぢうみで
あやうとふ



二 ラアあふらふき
とがまうが七
アムメ



清吉
女房

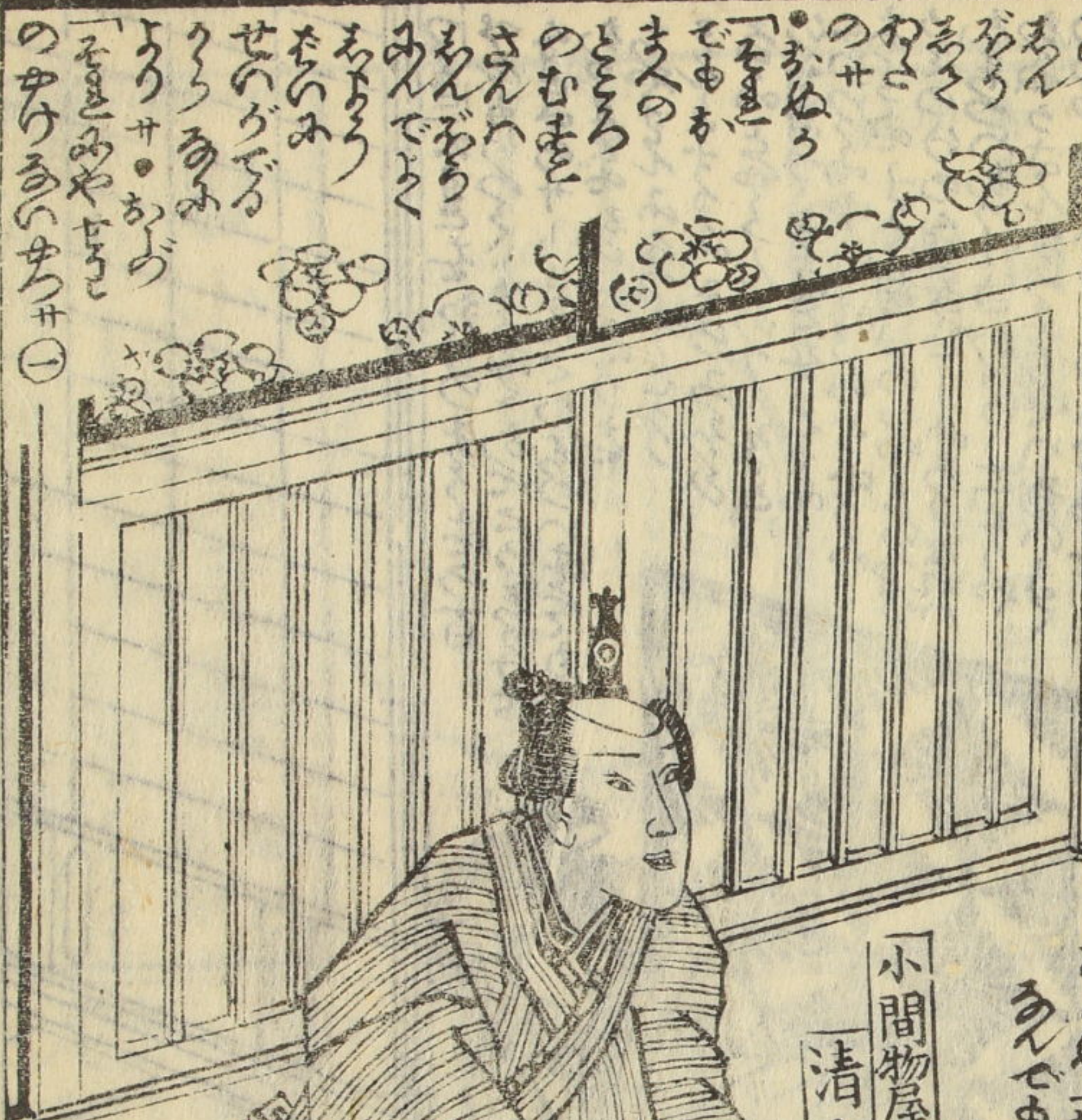
このまの
此処の清吉
の咄の趣き
を画ぐる

四 うみであるめり

あんぐと
まうまのあふら
ハナツのあふら
うらめ「あまのさん
あれでもあいの
みで五

小間物屋
清吉

まろくしてあつめ
おんみでこのまの
おとがでたるを
あまんぢうみで
あやうとふ



まろくしてあつめ
おんみでこのまの
おとがでたるを
あまんぢうみで
あやうとふ

のサけるあいのサリサ
(一)

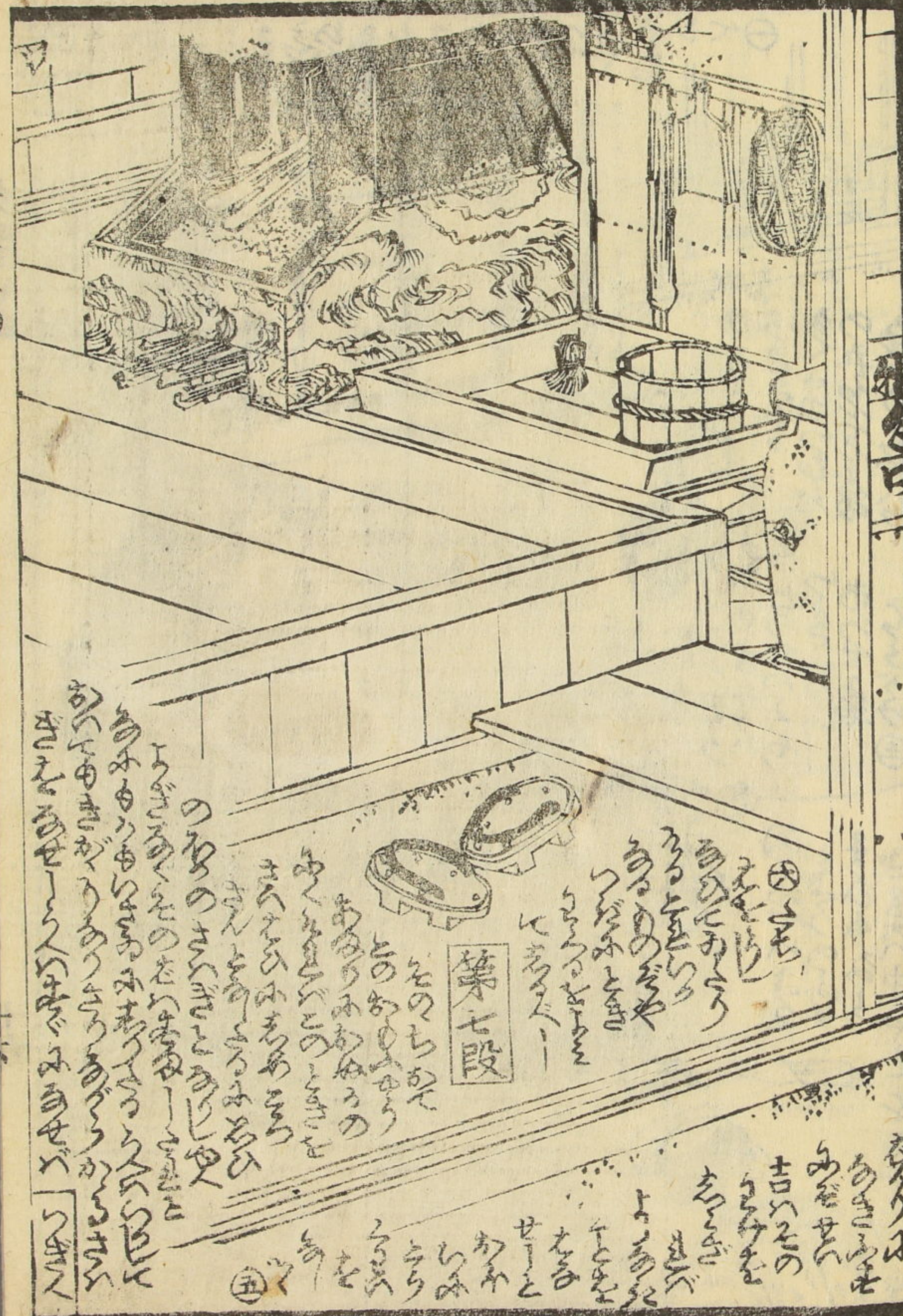
此の薬は... 功効... 能一血... 御薬 固齋散 大包代百 小包代三十二 銅

秀賀作 國貞画

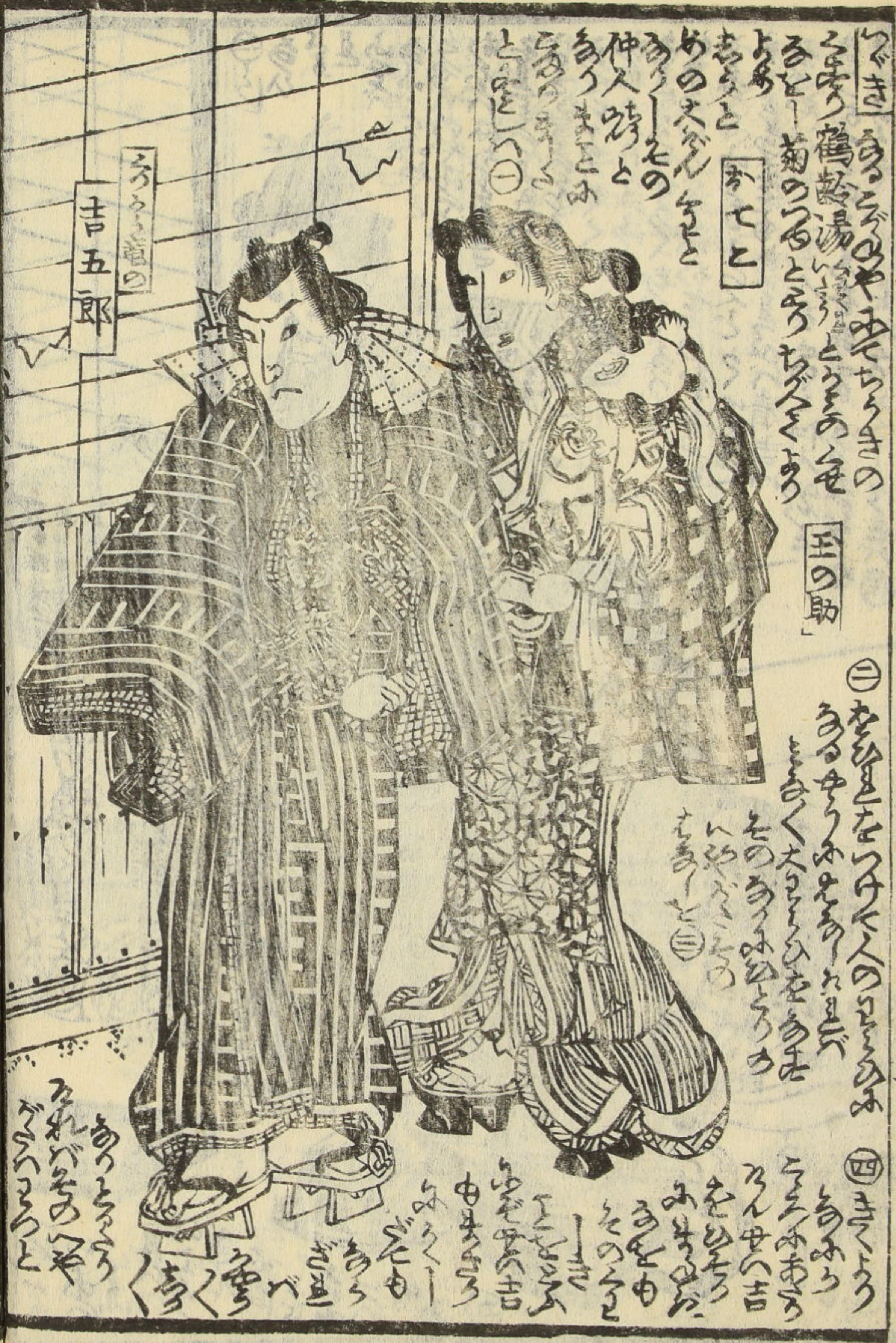


寝小便大奇薬 一包代三百銅 精製白妙 世二銅 清浄 精製 白妙 世二銅

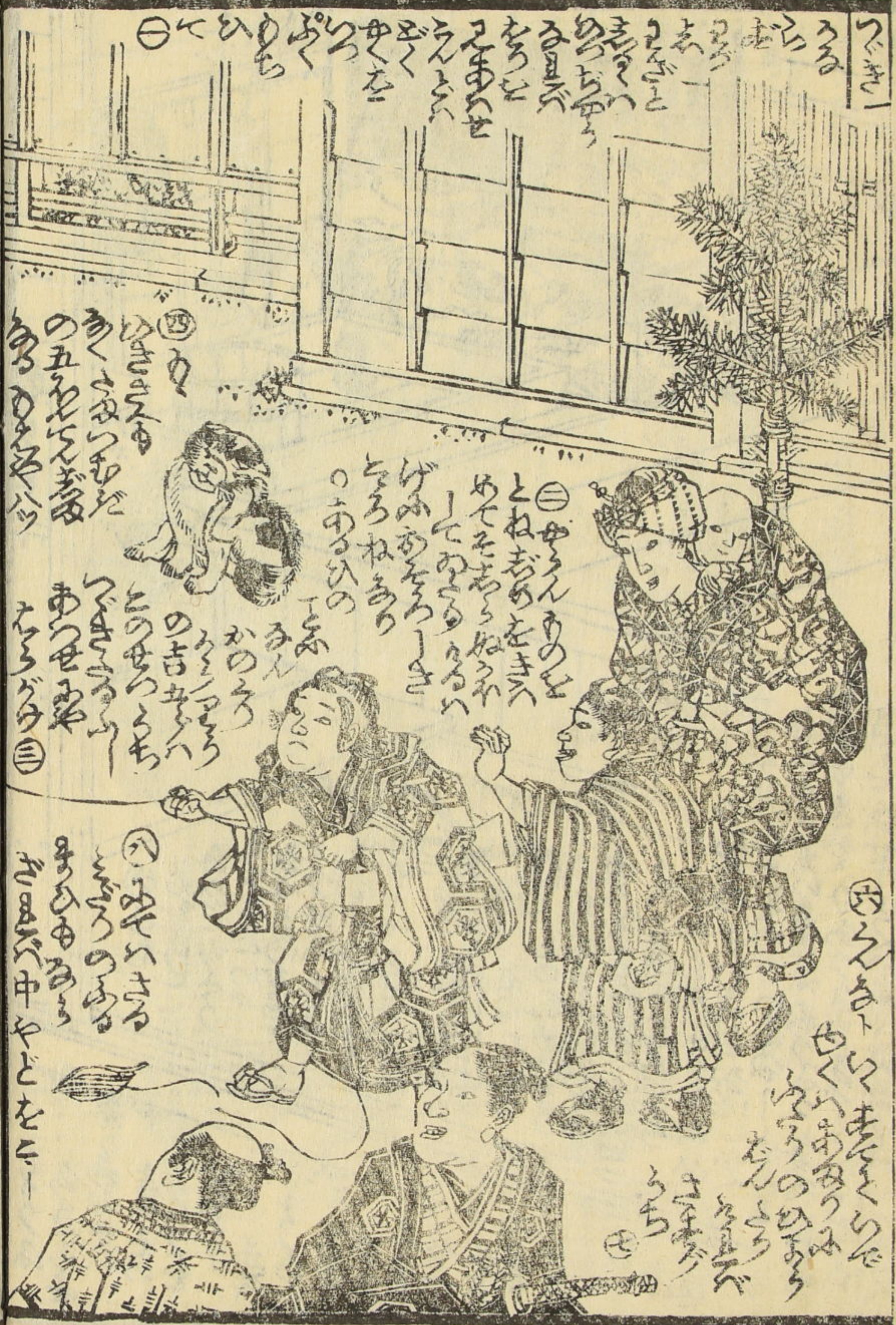
熱病 養生手引草 全 京山翁著 廣重画 美玉百人一首 中本形 全壹册 錦玉百人一首 半紙本 全壹册 雛鶴笹湯壽 紅摺本 京山翁著 女中用文玉千箱 中本形 觀音靈驗記 大錦 豊國画 百番揃 應賀著 武者かみ 大錦 芳虎画 番揃 秀賀作 足利縮手染紫 廿二編 國貞画



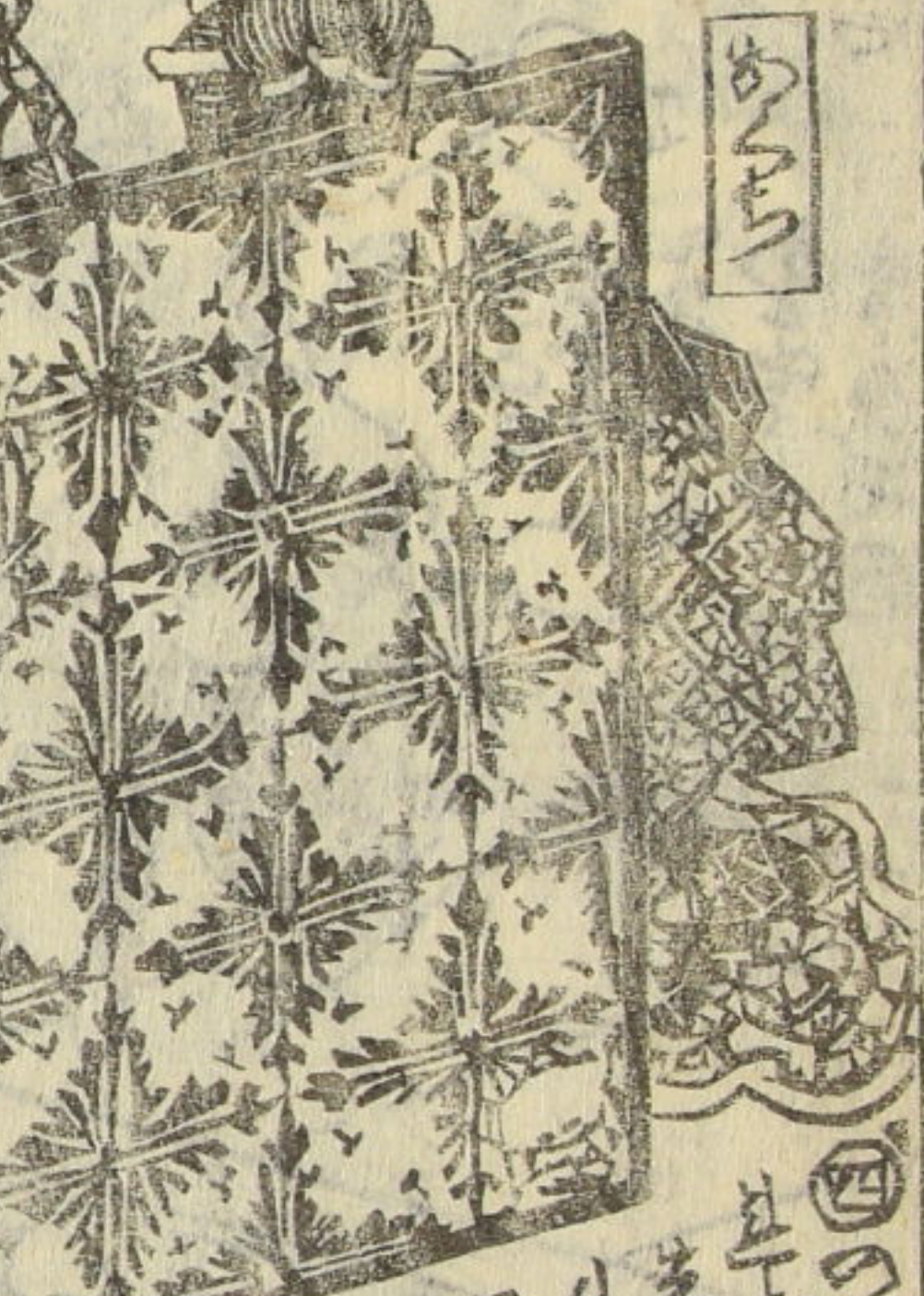
第七段
 ① ちやうど
 ② ちやうど
 ③ ちやうど
 ④ ちやうど
 ⑤ ちやうど



吉五郎
 ① ちやうど
 ② ちやうど
 ③ ちやうど
 ④ ちやうど
 ⑤ ちやうど



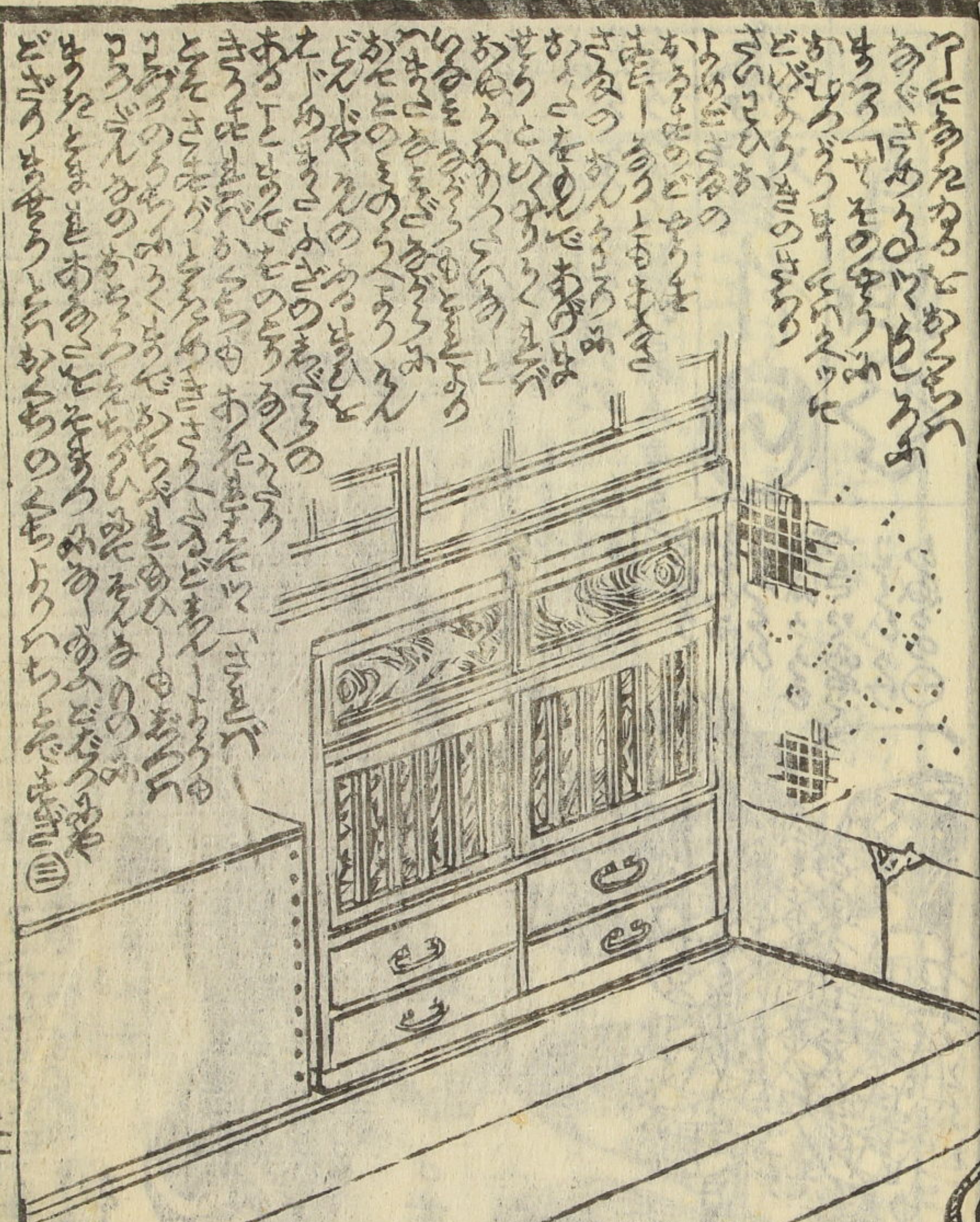
①...
あつては...
あつては...
あつては...



④...
あつては...
あつては...



⑤...
あつては...
あつては...

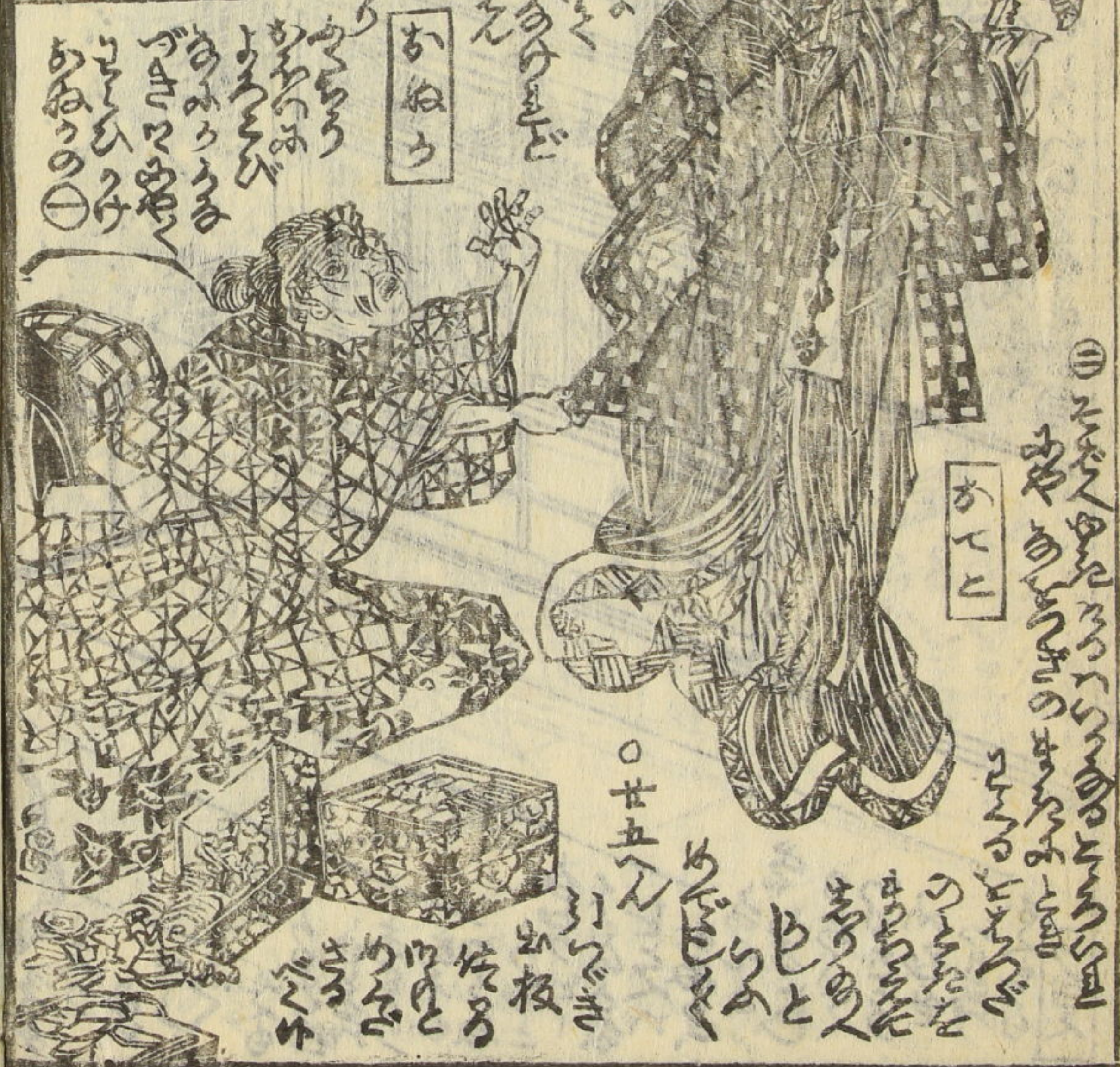


⑥...
あつては...
あつては...

慶應三丁卯辰春開版目録

秀賀作の
國貞画

この巻は、秀賀作の筆による、國貞画の複製である。内容は、御所櫻梅松録の巻末に収録されている。この複製は、原画の美しさを忠実に再現し、読者の目に留まるよう工夫されている。また、巻末には、この複製の制作に当たっての経緯や、秀賀作の画藝について詳しく説明されている。この複製は、現在でも多くのコレクターや研究者に愛用されている。また、この複製は、日本の美術史において重要な位置を占めている。秀賀作の画藝は、この複製を通じて、多くの人々に知られ、愛されることになった。この複製は、日本の美術史を語る上で欠かせない存在である。また、この複製は、日本の文化を伝える上で重要な役割を果たしている。秀賀作の画藝は、この複製を通じて、多くの人々に知られ、愛されることになった。この複製は、日本の美術史を語る上で欠かせない存在である。また、この複製は、日本の文化を伝える上で重要な役割を果たしている。



御所櫻梅松録

十編ヨリ 鶴亭秀賀著
十五編迄 錦朝樓芳虎画

土編 小松姫御逝去より松の前一旦善心小飯一ぬ井菅公梅の本
御再誕 土編 小松姫御逝去より松の前一旦善心小飯一ぬ井菅公梅の本
終り 土編 菅公益御継母の為小憂苦と受ぬより 西編 十五編迄
猶公の御更より 梅王松王櫻丸の傳小至り 土編 十七編小の時平公のよふ

御所 奉公 日記
土編 應賀作
大尾芳虎画

救艸女房形氣
廿四編 秀賀作
廿五編 國貞画

花裴狐草紙
三編ヨリ 魚目文作
五編ヲ 芳虎画

童繪解萬國新
四編 魯文作
五編 芳虎画

全 地本錦繪問屋 錦橋堂 山田屋 庄次郎版

江戸南傳馬町二丁目

